



小口尚司議員

災害現場の初動段階で消防団員が
最初に成すべきことは

町長 自分自身の身を守ることを

第一義に行動して欲しい

■消防団員の服務 (仕事・役割)の範囲は

小口 当町の消防団の組織力と団員の消防活動に対する意識は非常に高いです。3・11の東日本大震災を受けて、火災をはじめとするあらゆる災害時の消防団員の服務の範囲について伺います。

町長 消防組織法に基づいた服務により、被害軽減のためご尽力いただくものです。

■初動段階で 優先することは

小口 条例が定められているなかで、現場本部・災害対策本部が設置される前の初動段階での、消防団員の

行動について確認します。

町長 団員それぞれの安全確保が一番で、団員の方々が自分の身を守ることを第一義にしていたいただきたいと考えます。

■「白鷹町消防団条例」の 見直しの必要性

小口 条例は、一般的に自分を犠牲にしてまで消防活動を優先するような条文です。今後、防災計画と整合性をはかる上でも、条例の見直しが必要と思いますが町長の考え方を伺います。

町長 団員の安全と町民の安心安全を確保しながら、少し時間をいただきたいなかで検討していきます。

■消防団員の 情報収集手段は

小口 現在、部長以上が受信機を持ち情報収集をしています。その情報を受けた団員がどのような行動をとっているか把握できない状況ですが、その対応についてお聞きします。

総務課長 相互の通信情報が可能な、例えばトランシーバーの配備を、消防団やそれ以外の組織にも対応し、町全体の情報の相互確認ができるように準備をすすめています。

■地域防災組織との 連携のあり方は

小口 阪神・淡路大震災で被害を受けた自治体では、

自助(自分の安全は自分で守る)共

助(地域の安全は地域で守る)の重要性を防災計画に反映しています。

今後当町でも防災計画に活かすべきだと思えますがどうですか。

町長 まずは、地域の皆様方に防災計画の理念と、自らとる行動について理解していただかなければならないと思っています。

■消防団・地域・町が バランス良く役割を 果たせる環境づくりは

小口 消防団員の平均年齢は32・2歳です。消防団員が安全な消防活動ができ、防災計画のもと、「自助」「共



消防団員の訓練風景

助」「公助」がバランス良く役割を果たせるような環境づくりが必要と思いますが、町長の考えを伺います。

町長 意識の高い消防団員のモチベーションを維持しながら、町民の皆様方の安心安全の確保の最前線で頑張っていただける環境づくりに努めていきます。